

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.4.15 No.226 連絡先 FAX 042-555-1911



カーター米国防長官 E-4B 国家空中作戦センターで横田基地に着陸



アシュトン・カーター米国防長官は、4月7日夕刻、E-4B ナイトウォッチ（米国家空中作戦センター）で、横田基地に着陸し、9日には韓国に向け離陸しました（左写真）。E-4Bは、

核戦争・大規模災害などに際し、地上での指揮が取れない場合に備えて、米合衆国大統領・国防長官などの国家指揮権限(NCA)保持者および指揮幕僚を搭乗させ、米軍を空中から指揮します。E-4Bは、全長70.5mと大きいです。

カーター米国防長官 首相らと会談「日米同盟の強化・深化」を確認



カーター氏は、前国防長官ヘーゲル氏の辞任に伴い、オバマ大統領に指名され、今年2月に国防長官に就任しました。140万人を超える軍人と70万人余りの文民の職員を束ねることになります。

カーター米国防長官は、アジア重視の戦略から訪日。安倍首相や中谷防衛相らと会談し、「日米同盟の強化・深化」を確認しました。

カーター氏は8日夕、安倍首相と官邸で会談。安倍首相が「普遍的価値を共有する日米の同盟強化は、間違いなくアジア太平洋地域の平和と繁栄に資する」などと述べ、カーター氏は「日米が共有する価値観が平和と繁栄をもたらす」「(自衛隊と米軍の役割分担を定めた、日米防衛協力の指針=ガイドライン=改定は)アジア地域や世界の平和と安定を保障する」などと発言したそうです。



(写真上：カーター氏は、米軍横田基地で軍の子供たちや家族をもてなし、褒めたたえた。

写真下：韓国のソウル近郊のオサン基地において、軍人に講演、質問も受ける。米軍HPより)

過去最大の15年度予算が成立 国民の社会保障費削り 軍事は拡大

一般会計の総額が96兆3420億円と過去最大の2015年度予算が9日、成立しました。医療・介護・年金などの社会保障費は削られ、一方では、大企業を優遇する法人税減税を行い、軍事費は4兆9800億円、補正予算を含めると2015年度は実質5兆円を超え、過去最大です。



自衛隊を軍隊に変える予算、例。【テイルト・ローター機(V-22)の取得】5機516億円、その他教材等関連経費で95億円。【新早期警戒機(E-2D)の取得】1機232億円。その他関連経費(整備用機材等)別途419億円。【戦闘機(F-35A)の取得】6機1,032億円。※1国内企業参画を拡大することに伴う初年度費、別途177億円計上。

※2 その他関連経費(教育用機材等)、別途181億円計上。等々。(写真：3月30日、米海兵隊ニューリバー航空基地。飛行前のオスプレイの点検をする海兵隊員とそれを見る陸上自衛官。米海兵隊HP)

厚木基地の空母艦載機 E-2Cが横田でタッチアンドゴー (No. 226 の裏面)



左は、3月31日14時40分過ぎ、厚木基地の空母艦載機E-2Cがタッチアンドゴーをした時の写真です。昔、住宅地上空を激しく旋回していた空母艦載機です。

2015年度、政府が購入するのは1機232億円もします。

新早期警戒機E-2Dは、強力なレーダー・電子機器により、同時に250個の目標を追尾し、30の要撃行動を管制することができます。2,460万km³の空域と38万km²以上の地表面を同時に監視することができます。全長は17.56m、レドームの直径は7.31mです。

横田基地で 4月11日 関東航空機空中衝突防止対策会議が行われる



4月10日、防衛省北関東防衛局から周辺自治体へ、4月11日(土)、関東航空機空中衝突防止対策会議が開催されるとの情報があったようです。会議に伴い飛来する民間航空機は、予定で21機。離着陸予定時間は、着陸：午前10時30分から午前11時30分頃、離陸：午後5時から午後5時40分頃とのことでした。午前中は雨が降り、若干変更があったようです。飛来機は4機程度で、参加者の多くは別の交通手段を使ったようです。

飛来機は4機程度で、参加者の多くは別の交通手段を使ったようです。

阿波根昌鴻 (あはごんしょうこう) さんのふるさと伊江島 今・昔 (下)



阿波根昌鴻さんは、1901年3月3日生まれ(1903年は誤り)。2002年3月21日に永眠されました。享年101歳。

1966年中央労働学校に入学。社会科学を基礎から学び直す。

1967年、農民の学習の場を確保するため、米軍基地のゲート前に「団結道場」建設に取りかかる。米軍の執拗な妨害を乗り越え、3年がかりで完成。講師を呼び学習会が始まる。

1970年伊江島の軍用地の40%返還が決定。「祖国復帰」時には残りのすべてを返還すると米軍は約束した。しかしその後日本政府によって約束を撤回。1972年、祖国復帰。

1984年12月8日、自宅敷地内に自費で建設した反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」が開館。県内外から訪れる人々に戦争の愚かさや平和の尊さを説き続けました。「大事な勉強は、平和学習。人を幸せにして自分も幸せになるための、平和学習をしましょう」と小学生に平和を説く阿波根さん。1997年撮影。(「命こそ宝」カレンダーより)

伊江島補助飛行場は今…島面積の35.3%(約8km²)が米軍基地です。常駐機は無く全て飛来機です。ここでは、戦闘機ハリアーによる模擬空対地射爆撃訓練、重量物投下訓練、コーラル滑走路でのMC-130の離着陸訓練、パラシュート降下訓練、オスプレイの激しい訓練等が行われています。パラシュート訓練では、2014年12月10日、降下訓練中の米兵5人が民間牧草地に着地しました。着地したのは、同飛行場のフェンスから直線距離で約800mの地点。約100m先には牛舎がありました。農繁期で近隣の畑では農作業をしている住民も複数いたそうです。同飛行場周辺のフェンス外での落下は、2014年、5回目だと、地元紙が報じています。

F35戦闘機の訓練も計画され、滑走路の補強工事も4月には始まりそうですが、米軍は伊江村に説明もしません。理不尽なことです。伊江村議会は3月、全会一致で反対決議をあげました。